



(連絡先) 竹内 研時

東北大学大学院 歯学研究科 国際歯科保健学分野

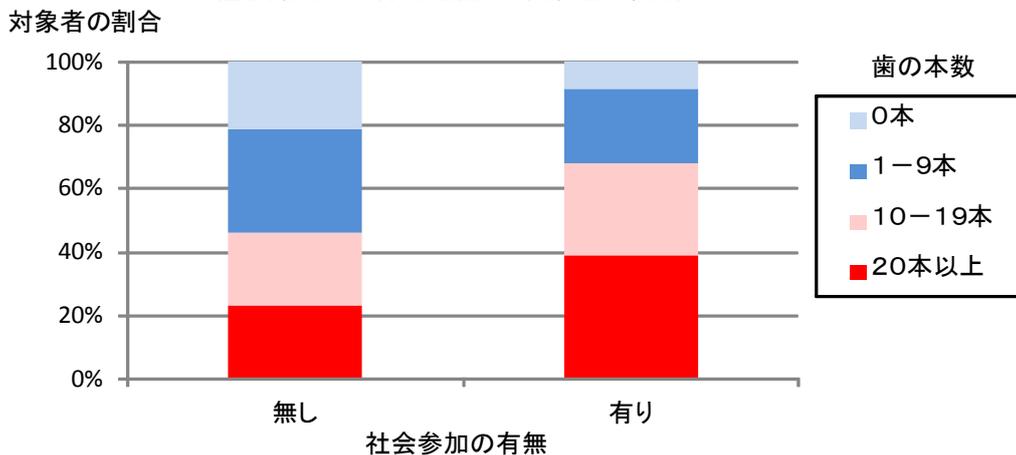
Phone: 022-717-7639 Fax:022-717-7644

E-mail: [k-takeuchi64@umin.ac.jp](mailto:k-takeuchi64@umin.ac.jp)

## 社会参加している高齢者は歯の本数が 1.3 倍多い

社会参加は地域の人とのつながりを構成する一つの要素であり、近年はこうした地域や社会の結束力が人々の健康に作用する可能性が指摘されている。本研究では、宮城県岩沼市の 65 歳以上高齢者全数を対象に、社会参加と歯の本数の関連を調査した。その結果、性別、年齢、健康状態、生活習慣、社会経済状態などに関わらず、社会参加していない人に比べて社会参加している人は歯の本数が 1.3 倍多いことがわかった。

### 社会参加の有無と歯の本数との関係



#### <背景>

高齢者が地域の人とのつながりを持てる地域づくりが重要で、地域の社会資源などの整備が必要であることが厚生労働省の介護予防マニュアル（改定版：平成 24 年 3 月）に記載されている。近年は、こうした地域や社会の結束力を表すソーシャルキャピタルが人々の健康に作用する可能性が指摘されている。社会参加はソーシャルキャピタルの構成要素の一つであり、家族や地域社会の営みなど様々なグループへの参加を表している。また、社会参加は WHO が定める Active Ageing の三つの柱の一つに数えられている。

これまでに私たちのプロジェクトでは、垂直的な人間関係を持つグループへの参加状況と水平的な人間関係を持つグループへの参加状況と高齢者の歯の本数との関係を調べ、水平的なグループへの参加が歯の本数を増やす方向に関連していることを明らかにした (Aida ら 2009)。今回は、高齢者の歯の本数と社会参加の数や種類、頻度との関係をさらに追及するため、最新の 2010 年調査のデータを用いた分析を行った。

#### <対象と方法>

J-AGES (Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究) プロジェクト ([http://square.umin.ac.jp/kaigo\\_bm/](http://square.umin.ac.jp/kaigo_bm/)) の一環として、2010 年 8 月に宮城県岩沼市の 65 歳以上高齢者

全数を対象に、全身や歯の健康状態、生活習慣や社会参加状況などに関するアンケート調査を行った。回答のあった 5,058 名（回収率 59.0%）のデータを用いて、社会参加と歯の本数の関連を検討した。社会参加には、政治関係の団体、同業者団体、ボランティア団体、老人会、宗教関係の団体、スポーツ関係のクラブ、町内会、趣味の会が含まれた。

#### <結果>

歯の本数の内訳は、全体の 34.2%が 20 本以上、27.1%が 10-19 本、26.3%が 1-9 本、12.4%が 0 本であった。社会参加の内訳は、政治関係の団体が 13.9%、同業者団体が 15.2%、ボランティア団体が 16.4%、老人会が 15.7%、宗教関係の団体が 7.3%、スポーツ関係のクラブが 24.5%、町内会が 46.8%、趣味の会が 41.1%であった。

年齢が高い人や全身の健康状態や生活習慣（歯磨き）や社会経済状態が悪い人で、歯の本数が少ない人が多いため、これらの違いや性別を考慮した。その結果、社会参加していない人に比べて社会参加している人は歯の本数が 1.3 倍多いことがわかった。また、参加しているグループの数別で比べると、4 つ以上のグループに社会参加している高齢者が最も歯の本数が多かった（オッズ比；1.46, 95%信頼区間 = 1.11-1.93）。さらに、社会参加の種類と頻度に関しては、スポーツ関係のクラブもしくは町内会、趣味の会に参加していると歯の本数が多く、スポーツ関係のクラブは週 2, 3 回、町内会は年に数回参加すると歯の本数が多く、趣味の会は頻度に関係なく参加すると歯の本数が多かった。

#### <研究の意義>

高齢者において、健康状態や社会経済状態を調整などに関わらず、社会参加していることがより多くの歯を持っていることと関連していた。今回の結果より、社会参加は口腔の健康に対し、防衛的に作用する可能性が示唆された。

また、作用機序としては以下の経路が考えられる。社会参加はソーシャルネットワークといった人々の交流の機会を増やし、ネットワークの中で人々は周りの人々の影響を受け、歯磨きなどの口腔保健行動や喫煙などの生活習慣が影響を受ける。さらに、ネットワークの中で人々は周囲のサポートを受けて、歯科への受診勧奨やストレスの軽減が起こる。これらは、う蝕や歯周病などの歯科疾患の発生を減らし、最終的に歯の喪失を減らすという結果につながることで、より多くの歯が残ると考えられる。しかし、この経路には歯の本数が多い人ほど社会参加をしているという逆方向の関連や今回考慮できなかった第三の因子による影響も考えられるため、今後は因果を明らかにするようさらなる研究が必要と考えられる。

#### <論文発表>

Takeuchi K, Aida J, Kondo K, Osaka K. Social Participation and Dental Health Status among Older Japanese Adults: A Population-based Cross-sectional Study. PLOS ONE 2013. doi: 10.1371/journal.pone.0061741

#### <参考文献>

・Aida J, Hanibuchi T, Nakade M, Hirai H, Osaka K, Kondo K. The different effects of vertical social capital and horizontal social capital on dental status: A multilevel analysis. Soc Sci Med 2009;69: 512-8.

#### <謝辞>

本研究は、文部科学省研究費補助金（基盤研究(B) (22390400)並びに (C) (22592327))、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省）を受けて行った。記して深謝します。